

渡辺博道 復興大臣 殿

「世界で最も厳しいレベルの食品放射能基準」 ???  
ウソ宣伝の『放射線のホント』 廃刊を求める署名



25頁（原文は縦書き）  
福島第一原発周辺地域の人々は今どうしているの？

子どもや若い人は戻ってないわよ！

福島県では約190万人の人々が通常の生活を送っています。  
また、県全体の面積の2.7%まで避難指示区域が縮小し、  
**ふるさとに帰った人たちにも  
日常の暮らしが戻りつつあります。**



復興庁パンフレット『放射線のホント』は”放射能は安全で、福島原発事故で健康被害は起きていないし、今後も起こらない”とウソ宣伝しています。**その内容が文科省の放射線副読本に盛り込まれました。学校でウソを教え、だましてはいけません。**

避難指示が解除された地域では「ふるさとに帰った人たちにも、日常の暮らしが戻りつつある」と宣伝しています。しかし、浪江町に戻ったのはわずか6%。子どもや若い人はほとんど戻らず、大部分が高齢者。孫の顔も見られないのにとても「日常の暮らし」とは言えません。

24頁		食品中の放射性物質に関する基準		単位:ベクレル/kg	
日本	トリック	EU	アメリカ	コーデックス	
飲料水 10	飲料水 1000	飲料水 1000			
牛乳 50	乳製品 1000	乳製品 1000			
乳児用食品 50	乳児用食品 400	乳児用食品 400		乳児用食品 1000	
一般食品 100	一般食品 1250	一般食品 1250	食品 1200	一般食品 1000	

「日本は世界で最も厳しいレベルの基準を設定して食品や飲料水の検査をしております」とうたっています。根拠とされている表には見逃せないトリックがあります。事故翌年4月以降の「平常」時の日本の基準値と、緊急時の外国のゆるい基準値とをくらべています。同じ状況でくらべなければいけないのに、**異なった**

「平常」時の日本の基準と、緊急時の外国のゆるい基準を比較するトリック

**状況の基準を並べて日本の値を厳しく見せ、「世界で最も厳しい」と印象づけようとしています。**

税金でウソの宣伝をしている『放射線のホント』を廃刊にするよう求めます。

お名前	ご住所

署名集約団体：放射線被ばくを学習する会 [anti-hibaku@ab.auone-net.jp](mailto:anti-hibaku@ab.auone-net.jp)

〒343-0838 越谷市蒲生 2-16-33-102 温品 (めくしな) 惇一 090-3577-4844

第2次集約：2019年1月31日 第3次集約：2019年3月31日

